太田地区 OHDA

地域活動の活性化に向けたワークショップ ニュースレター

VOL. 02

令和5年 12 月

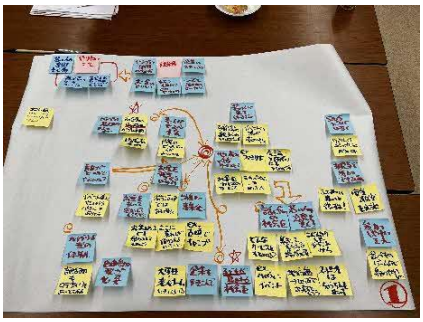
発行：茨木市市民文化部地域コミュニティ課

太田地区では、「太田の魅力をもっと高めていく、地域活動のあり方を考えよう！」をメインテーマに、地域の更なる活性化を目指して、全3回のワークショップを実施しています。令和5年 11 月 11 日（土）に開催した第 2 回のワークショップでは、講師の講演を聞いた後に、6つのグループに分かれてワークを行いました。

講演　まちづくりの進め方を専門家と一緒に考えよう！

第2回は谷亮治氏（京都市まちづくりアドバイザー：京都市を拠点に、様々な地域のまちづくりを支援している）をゲストに招き、第1回の議論を踏まえた話題提供や事例紹介をしていただきました。

「まちづくりの組織づくりとして、これまでの上下関係がはっきりした“ピラミッド型”からフラットにつながる“ネットワーク型”へ」「個人として参加し、やりたいことを表明できる対話の場“まちづくりプラットフォーム”」などのアイデアを、事例を交えてお話しいただきました。



第2回　実施概要

日　　時：2023.11.11（土）
19:05～21:05
会　　場：太田公民館
参加者数：３１人

プログラム

１：前回の振り返り
２：無人島ゲーム（アイスブレイク）
３：講演（谷 亮治 氏：京都市まちづくりアドバイザー）
４：ワーク：太田地区で取り入れたいアイデアを話し合おう
５：グループ発表（全体共有）

ワーク　やってみたい、取り入れたいアイデアを話し合おう！

ワークでは、講演や事例紹介を踏まえて、「**①地域活動・つながり・集いの場**」「**②若い世代・世代間交流・住環境**」「**③こども・安全・安心**」の3つのテーマに分かれて、アイデアを出し合いました。

○各グループの話し合い内容（抜粋）

テーマ	グループ	話し合ったアイデア
①	1	1. 若い人の意見を聞く、話し合いの機会を生む仕掛け ○こどもが集まれる機会、親子で参加できる場！ 2. 事業を継続させるための仕組み・工夫 ○活動の事業化 ○高齢者への生活支援をセミプロ集団として、地域の人が取り組む ○お金を発生させる仕組みづくり（お金を払ってでも参加してくれるサービス）
	2	1. 気軽につながる場や機会をつくろう！ ○既存の活動に合わせたつながる機会 ○いろんな分野のバザー的な商品交換会 2. 課題解決を考える場を設定したい！ ○様々な立場の人が集まり、課題や問題点を出し合い、解決法を考える場 ○自分の趣味や特技を生かせる場 ○場／組織の在り方の見直し ○やりたいことの実現
②	3	1. 若い人と地域がつながるきっかけを生む場を大事にしよう！ ○既存の活動をもっと活用して参加しやすくするための情報発信や仕組み 2. 世代間の意識や価値観を知る機会をつくろう！ ○アンケート調査の実施 3. ネットワーク型組織の導入を考えよう！ ○LINE のオープンチャットの活用 ○やりたいことの部活化
	4	1. 今ある活動を参加しやすくする工夫をしよう！ ○こどもも参加しやすくして世代間交流を促す（お菓子教室、工作イベント、竹馬や将棋などの昔遊び） 2. みんながやりたいことを把握するためのアンケート調査 3. 新しい部活を作ってみる（地域の特性を活かした田植え、畑、フリマ）
③	5	1. 見守り活動の見直し ○見守りの負担軽減（シルバー人材センターへの委託など）や見守りが必要なポイントの洗い出し 2. こどもの遊び場の使いこなし ○こどもがのびのびと遊べる環境を大事にして、使いこなす
	6	1. こどもの活動をもっと参加しやすくしよう ○こども会に参加していない人でも、誰でも参加できるようなイベント ○気軽に参加できるスポーツ活動の推進 ○こどもが気軽に出入りや活動ができる場（公民館のコミセン化など） ○大学生の参画 ○こどもの見守りの体制づくり（シルバー人材センターの活用やスクールバスの巡回など） 2. 安全で安心できる地域づくり ○ごみ問題の改善 ○移動手段

次回ワークショップは 12 月 9 日（土）。今回のワークで出たアイデアをさらに深めて、ワークシートに具体化するワークショップを行います。